

国管理空港の収支を分析する(その1)

国交省は、平成23年度における国管理26空港(※1)の収支試算を公表した。その収支を、それに続いて公表した国内空港の実績(着陸回数、乗降旅客数、給油量など)とも組み合わせて、当研究所で分析した結果をシリーズで掲載します。

(※1) 空港会社に経営が移管されている成田、関西、伊丹、中部は含まれない

(はじめに)分析で採用した「収支パターン」、および空港の区分

1) 収支値は「パターン3」を採用

国による試算は4つのパターンで行われているが、ここでは企業会計の型に最も近いと考えられる「パターン3」の数値を取り上げた。

パターン3では燃料税など「一般会計」からの組み入れ分が含まれる。ここではこれを着陸料などと同列の収入として扱った。

2) 空港ビル会社による収支は、章を改めて取り上げる。

各空港で営業されている空港ビル会社の収益性については、主なものを別章で取り上げることとした。

3) 26空港を便宜上5つに区分した；

1) 黒字6空港；平成23年度に黒字をあげている6空港

新千歳(札幌)、小松、熊本、鹿児島、宮崎、松山

2) 赤字10空港；赤字の10空港、但し費用が収入の2倍以上の大幅赤字空港は含めず、別区分した。

羽田、福岡、那覇、函館、釧路、広島、高松、高知、長崎、大分

3) 大幅赤字4空港；費用が収入を大きく上回る大幅赤字の4空港

新潟、北九州、徳島、茨城(百里)

4) ローカル5空港；比較的規模の小さい地方の5空港をまとめて扱った。

いずれも費用が収入を大きく上回る。

稚内、八尾、丘珠、米子(美保)、三沢

5) 仙台空港；震災復興のために特別な予算が組まれ、特殊要素が極端に強いことから、ここでは別区分とした。

1. 収入・旅客規模等の俯瞰

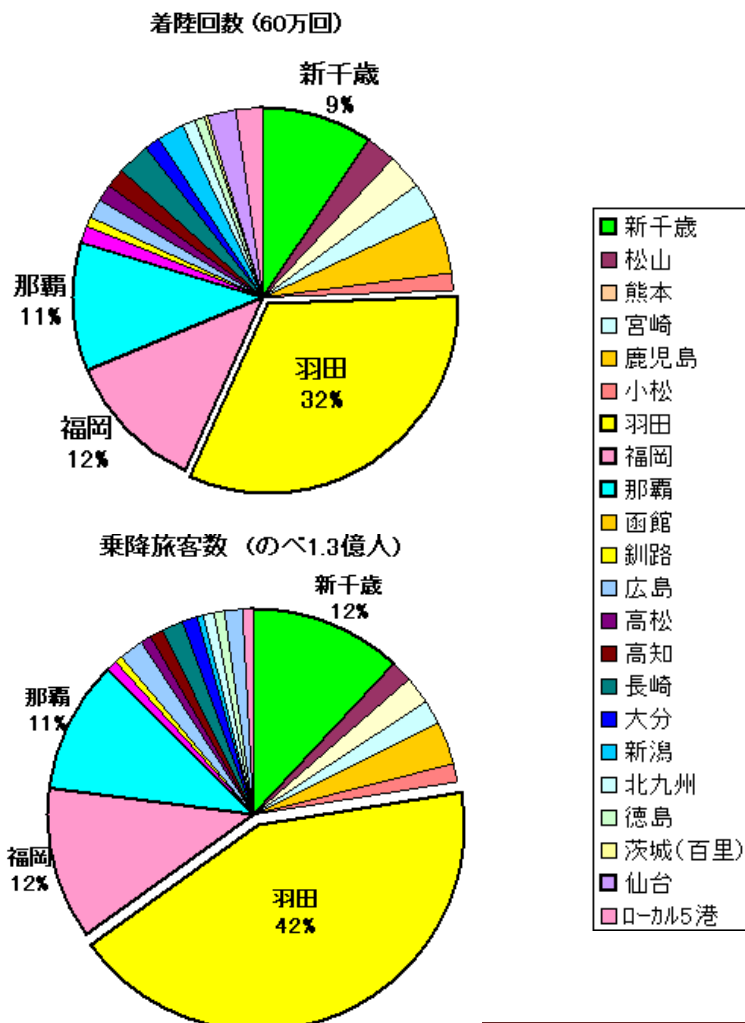
① 規模を便数、旅客数、収入の面から捉えた。

- ・ 便数；着陸回数約 60 万回
- ・ 旅客数；乗降客 13.3 万人 ⇒乗・降重複カットを考慮した実旅客数はその半分
- ・ 収入；着陸料や土地建物賃料のほか、燃料税（※2）等の一般会計からの流入分を含む

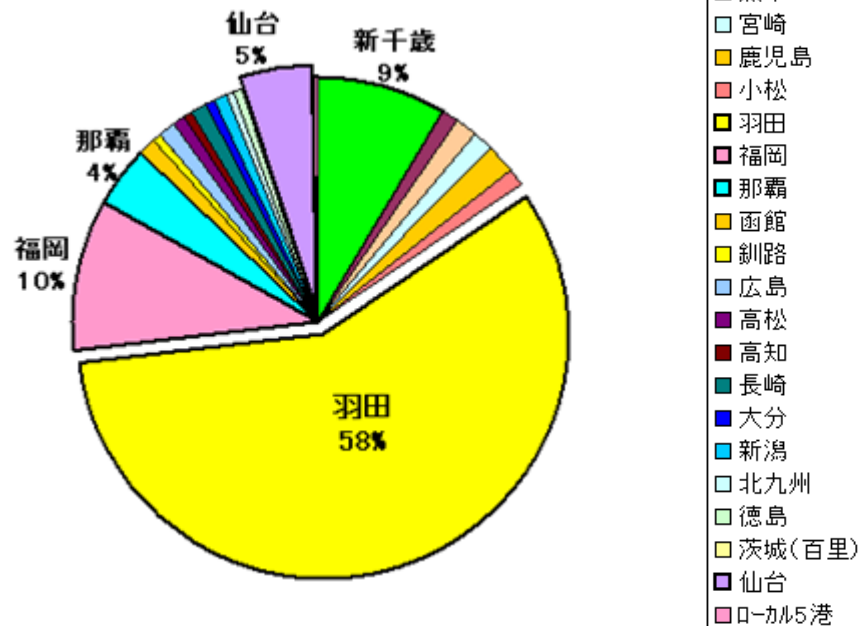
（※2）航空会社納付額のうち約 78%（9 分の 7）が還流されている

② 主要空港をみると；

- ・ 羽田が圧倒的なシェア；
即ち 32%の便数で、42%の旅客を運び、58%の収入を得ている。
- ・ これに福岡、新千歳（札幌）、那覇が 10%程度の便数、旅客数で続いている。
しかし収入では、福岡、新千歳が 10%程度ながら、那覇は 4%と少ない。
- ・ 仙台は復興のための予算措置により、収入額は那覇を上回っている。



収入
(1,180 億円)



2. 空港区分別の収支俯瞰

① 26 空港全体の収入は 1,180 億円、損益は▲157 億円の赤字（利益率▲13%）

うち「黒字 6 空港+仙台」は収入 238 億円で+77 億円の黒字

「赤字空港（全 19）」は収入 942 億円で▲234 億円の赤字

② 黒字 6 空港；黒字総額 61 億円

- ・ 新千歳（札幌）；収入 102 億円、黒字は 45 億円と黒字総額の 4 分の 3 を占め、利益率も 44% と高い。
- ・ 小松が黒字 7 億円で続き、利益率は 55% と新千歳を上回る。
- ・ 九州 3 空港（熊本、鹿児島、宮崎）が黒字 2~4 億円で続く
- ・ 松山も小幅ながら利益を計上

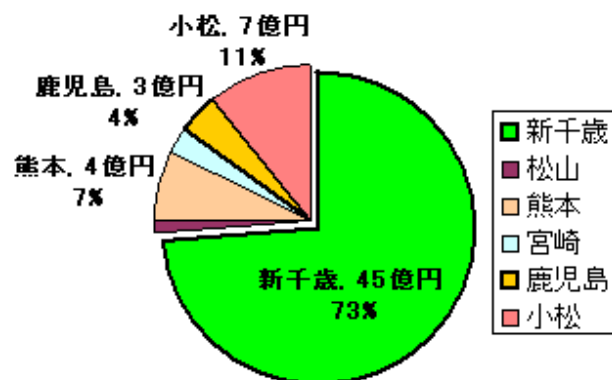
③ 赤字10空港；赤字総額179億円

- ・ 羽田；収入679億円、この区分の10空港で約4分の3を占める。
また赤字額は100億円（損失率▲15%）に達する。
- ・ 那覇；着陸料の割引の影響で収入が51億円と少ないため、赤字は44億円（▲87%）と大規模
- ・ 福岡；収入は117億円、利益率は羽田と同規模の▲16%
- ・ その他；釧路、函館、高知は
損失率が高く▲40～▲50%

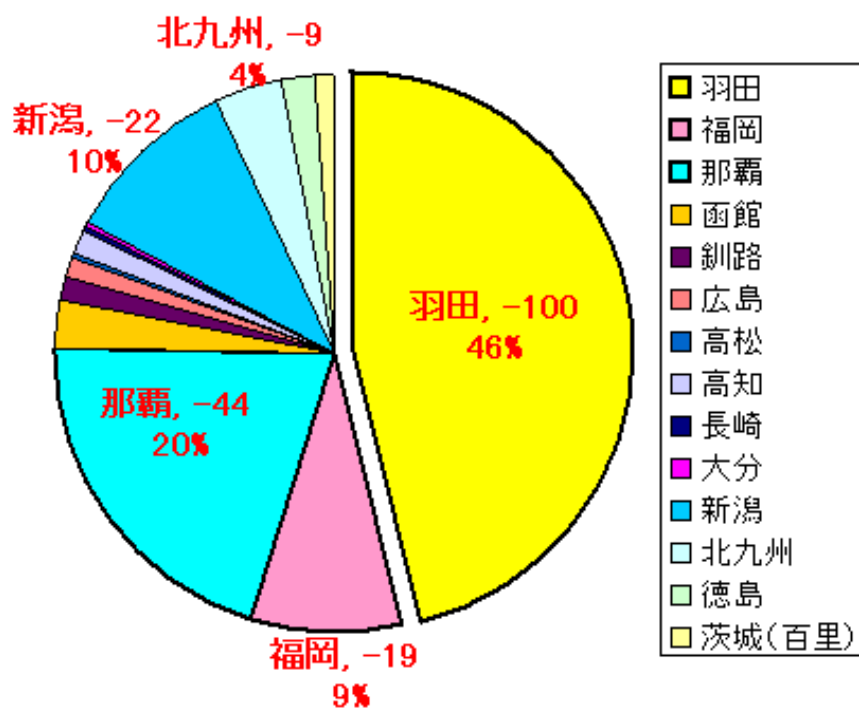
		収入 ■ 損益		率
		億円	億円	
黒字6空港	新千歳	102	45	44
	松山	12	1	8
	熊本	16	4	26
	宮崎	18	2	10
	鹿児島	23	3	11
	小松	12	7	55
	(計)	183	61	
赤字10空港	羽田	679	-100	-15
	福岡	117	-19	-16
	那覇	51	-44	-87
	函館	12	-6	-49
	釧路	6	-3	-52
	広島	14	-3	-18
	高松	9	-1	-7
	高知	7	-3	-41
	長崎	12	-0	-1
	大分	8	-1	-14
(計)	916	-179	-20	
大赤字4空港	新潟	9	-22	-247
	北九州	8	-9	-110
	徳島	4	-4	-104
	茨城(百里)	1	-2	-217
(計)	22	-37	-170	
20空港計		1,120	-155	-14
(ローカル)	その他5港	5	-18	-370
(特別)	仙台	55	16	29
26空港計		1,180	-157	-13
		(黒字空港計)	238	77
		(赤字空港計)	942	-234

- ④ 大幅赤字 4 空港；赤字額は収入を上回る 37 億円
- ・ 4 空港合計の収入が 22 億円に対し、費用はその 2.7 倍の 59 億円
赤字額は 37 億円（損失率 170%）
 - ・ 赤字額では新潟（▲22 億円）、北九州（▲9 億円）が大きく、
茨城（百里）は損失率では 200%を越えている。
- ⑤ ローカル 5 空港と仙台空港；赤字率は 370%
- ・ 5 空港合計の収入が 5 億円に対し、費用はその 4.7 倍の 23 億円
赤字額は 18 億円（損失率 370%）
 - ・ 仙台は復興予算が大きく、収入は 55 億円、費用は 39 億円だった。

黒字の空港別内訳(総額 61 億円)



赤字の空港別内訳(総額 216 億円)ローカル 5 港は含まず



以上